

高等学校等就学支援金

平成22年4月よりはじまりました高等学校等就学支援金は、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する制度です。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されます。支給期間は、原則として通算36月です。また、保護者の所得に応じて一定額が加算される加算支給制度があります。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由による納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（今年度からは前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も出来ることとなりました。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は家計・学力・人物について免除選考基準により、学生委員会で審議しますが、自宅謹慎処分を申請前の6月以内に受けた者、原級留置の者、修業年限を越えた者は、病气・

留学など特別な事由があると認められた場合を除き免除の対象にはなりません。

授業料免除の申請時期は、前期分は4月上旬、後期分は9月中旬になっておりますが、事前の説明会で免除申請用紙を配布し、あわせて申込み締切り日についてお知らせいたします。なお、説明会の日程については掲示・放送および学級担任・専攻長からお知らせします。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0734

行事予定(4月から8月)

- | | |
|--|--|
| <p>4月</p> <p>3日(火) 開寮 13:00
4日(水) 入学式
新入寮生歓迎夕食会
5日(木) 始業式
新入生オリエンテーション
専攻科ガイダンス
6日(金) 前期授業開始
クラブ紹介(現在調整中)
11日(水) 第1回TOEIC-IP試験
(5年・専2年)
新入生学力診断テスト
18日(水) 寮防災訓練(1年)
19日(木) 定期健康診断(臨時休講)
25日(水) 学生総会
27日(金) 開校記念日
30日(月) 公開授業
振替休日</p> | <p>6月</p> <p>6日(水) 第2回TOEIC-IP試験
(4年・専1年)
11日(月)～15日(金)
専攻科学力入試願書受付
23日(土) 専攻科学力入試
27日(水) TOEIC-IP試験説明会(3年)</p> |
| <p>5月</p> <p>1日(火) 木曜振替授業
7日(月)～11日(金)
専攻科推薦入試・社会人入試願書受付
9日(水) 全校・校外清掃日
16日(水) 後援会総会
学級懇談会
寮保護者会
19日(土) 専攻科推薦入試・社会人入試
21日(月) 共通科目試験日
21日(月)～6月1日(金)
前期中間試験期間
30日(水) 共通科目試験日</p> | <p>7月</p> <p>6日(金) 学生臨時休業(開校記念日振替)
6日(金)～8日(日)
東北地区高専体育大会(福島・秋田)
16日(月) 化学グランプリ1次選考
18日(水)～20日(金)
編入学(推薦)願書受付
24日(火)～30日(月)
前期末試験
28日(土) 編入学試験(推薦)
30日(月) インターンシップ事前指導会(4年)</p> |
| | <p>8月</p> <p>1日(水) 夏季休業前集会
3日(金) 補講日
4日(土)～5日(日)
一日体験入学
7日(火) 金曜振替授業
8日(水) 寮大掃除
夏季休業開始(9月24日まで)
9日(木) 閉寮 10:00
11日(土)～17日(金)
学校閉鎖期間
29日(水)～31日(金)
編入学(学力)願書受付</p> |

編集後記

震災から1年が過ぎたと振り返ることができていることに感謝しなければなりません。ご支援頂いた多くの皆様に御礼申し上げます。本校の教育、研究の正常化に取り組み卒業生、修了生を送り出したこと、地域の復興に貢献する体制づくりを進めている姿をお伝えできていれば幸いです。 広報委員長 内田 修司

学校だより

Vol. **92**
2012.4

Contents

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 02 卒業式・専攻科修了式告辞 | 22 ロボコン・プロコン
デザコン・プレコン |
| 04 祝 卒業・修了 | 24 文化発表会 |
| 17 学生会 | 25 学生の活躍・
クラブ活動等の結果 |
| 18 卒業生・修了生の進路 | 29 震災復興関連 |
| 20 オープンキャンパス・
ミニ研究発表会 | 31 50周年記念進捗状況
退職者紹介 |
| 21 全国高専ロボコン | |



第7回専攻科修了証書授与式 第46回卒業証書授与式 挙行



第7回専攻科修了証書授与式・ 第46回卒業証書授与式 告辞

福島工業高等専門学校 校長 奈良 宏一

修了生、卒業生諸君、修了・卒業おめでとうございます。また、保護者・ご家族の皆様、大変おめでとうございます。

本日、ここに、多数のご来賓と、卒業生・修了生の保護者の皆様のご出席をいただき、第7回専攻科修了証書授与式並びに第46回卒業証書授与式を実施できますことは、教職員一同、誠に慶びとするところです。ご多用中にもかかわらずご出席いただきましたご来賓の皆様ならびに保護者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本日、本校を巣立つのは、専攻科の、機械・電気システム工学専攻12名、物質・環境システム工学専攻11名、ビジネスコミュニケーション学専攻9名の専攻科修了生計32名、並びに、本科生として、機械工学科37名、電気工学科37名、物質工学科43名、建設環境工学科40名、コミュニケーション情報学科40名の計197名です。本科卒業生の中には1名の留学生が含まれています。本年度も、専攻科修了生は、全員、学士の学位を授与されています。

卒業生・修了生の諸君、諸君が本日の卒業式を迎えることができたのは、諸君が日々精進を重ねた結果であり、諸君の努力に敬意とお祝いの気持ちを表したく思います。また、本日の諸君があるのは、ご家庭の皆様愛情や教職員の熱意と指導があったからでもあります。本日、改めて、諸君を育ててくれたまわりの皆様すべてに、感謝の気持ちを持っていただければと思います。

卒業生・修了生の保護者・ご家族の皆様には、本日ご卒業のお子様をこのように立派に育て上げられましたことに敬意を表し、心からお祝いを申し上げます。誠にありがとうございます。

さて、昨年3月11日の東日本大震災で、福島県を含む東日本の太平洋岸地域は甚大な被害を受けました。特に、福島県では、福島第一原子力発電所の事故により、地震と津波の被害に放射線の被害が加わっています。このような異常な状況から、我々は知恵と努力で故郷の復興・復興に立ち向かわねばなりません。すなわち、被災地域を災害に強い街や安心・安全な社会に作り替えることが必要です。本日この被災地から巣立つ修了生・卒業生へは、地域、日本、そして世界から、地域の復興、日本の復興の力として大きな期待を寄せられています。諸君が卒業後、どのような職場でどのような仕事をしようが、その仕事が必ず日本の復興に結びつきます。自らの専門分野、または、自らの立場で、地域の復興、日本の復興に向けて活躍してくれることを期待しています。

今、地域のニーズや技術者へのニーズは震災を機に大きく変わりました。福島県は原子力発電所立地県から再生可能エネルギー技術の日本の拠点へと変貌すべく動き出しています。また、原子炉の廃炉に関する技術開発も大きな課題です。さらに、うず高く積まれた瓦礫の山の安全な処分方法と、放射性物質の除染方法、住民の意見を入れながらの安心な街づくり計画などは復興を進める上での喫緊の問題です。

若い諸君の柔軟な発想力と実践力がこれらの課題を解決する力となるものと信じています。

しかし、諸君を待ち受ける世界は甘いものではありません。いま、技術も経済もグローバル化しました。加えて、日本経済は大きな財政赤字のまま停滞しています。日本は新鮮な発想力



でイノベーションを繰り返しつつ、国際競争力をつけねばなりません。そのために諸君が考えるべきキーワードは「情報技術(Information Technology)」、「国際(International)」、「革新(Innovation)」の3つのIであろうと思います。諸君がこれから向かう社会や日本の復興にあたって、この3つのIが重要なキーワードであることを少し考えてみたいと思います。

「情報技術(Information Technology)」はComputer とCommunicationにその利用方策を加えた技術と考えられます。「情報技術(Information Technology)」はさまざまに「革新(Innovation)」を引き起こしてきました。大容量の高速パソコン、インターネット、携帯電話やスマートフォン、SNS、ツイッターなど、人類の生活様式そのものを革新的に変えてきました。いまや、情報技術を使わないシステムは無いと言えるほど、重要な技術です。情報メディアや情報そのものをどのように利用し管理するかも含め、情報技術はこれからの社会を生きるためのキーテクノロジーと考えねばなりません。

高速な情報伝達は世界経済をグローバル化しました。それにより、産業分野においても国境を越えた開発・生産活動が要求されています。世界中の競合他社との価格競争、それを避けるための国際分業化などはその典型例で、これからの技術者には世界各国に分散した生産拠点を管理運営する能力も求められます。「国際(International)」というキーワードは皆さんが避けて通れない社会からの要請であろうと考えます。これからの技術者は、世界の誰とでもコミュニケーションをとるために、世界共通言語ともいべき英語を使いこなせなくてはなりません。語学とコミュニケーション能力の重要性を諸君は肝に銘じておかねばなりません。

国際分業化の観点から日本の技術やモノづくりは、「日本でなければできない」ものである必要があります。そのために、たゆまない柔軟な発想や革新性、すなわち、Innovationが日本の技術者またはビジネスマンに要求されています。諸君は、現代社会からイノベーションを起こし得る創造性たくましい人間であることを求められています。

地域の復興・復興に必要な技術に戻ってみましょう。たとえば、再生可能エネルギーの利用技術であるスマートグリッド、原子炉の廃炉に欠かせないロボット技術、減災社会構成に必要な地理情報技術のどれをとっても、このInformation Technologyすなわち情報技術、Internationalすなわち国際協力、Innovationすなわち革新的技術開発の3つがこれらの技術を成功へ導くキーワードであることが容易に想像できます。

福島高专では、「情報技術(Information Technology)」、「国際(International)」、「革新(Innovation)または創造性(Creative)」という3つのキーワードを学習教育目標に掲げて皆さんの教育に当たってきました。したがって、卒業生・修了生諸君は、これらの能力を卒業レベルまたは修了レベルで身につけています。あらゆる難問・難題を克服して自らの人生を切り開くことが出来るだけの実力をこの福島高专で得ています。自信を持っていただきたい。しかし、実際に社会の先頭に立って役に立つレベルになるまでには、まだまだ、勉強が必要です。特に、技術者は、専門分野の勉強を続けなければ、進歩が極めて速くなった技術レベルに追いついていくことすらできません。本日の卒業式は、諸君が生涯にわたり自ら勉強を続けていくための基礎的能力を保証するものでしかありません。卒業生・修了生諸君が、「情報技術(Information Technology)」、「国際(International)」、「革新(Innovation)」の3つのIを頭の片隅において、さらに勉学を積み、何にでも挑戦する高専マインドで、地域の復興、日本の発展に向けて、大いに活躍していただくことを期待します。

自らに自信を持って、健康に留意し、すばらしい明日を築いて行って下さい。

最後に、諸君のこれからの人生が幸多いものであることを祈念して告辞と致します。



機械工学科



DEPARTMENT OF MECHANICAL ENGINEERING

卒業おめでとう

機械工学科 5年担任 平尾 篤利

卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。これから、新しい進学先・就職先でいろいろな出会いがあり、たくさんの経験をするかと思えます。

私は、どんな出会い・経験も皆さんの将来にきっと意味のあるもの、そして役に立つものだと思います。

小さな出会い・経験を大事にしてください。これから、広い社会に出るわけですが、世の中には、びっくりするくらいすごい人がいます。皆さんの中にもいるかもしれませんが、多くの人は普通の人かと思えます。

そのため、常に向上心を持ち、努力を怠らないようにしてください。

きっと、将来の糧となるはずです。また新天地では、新しい大事な友人を作ってください。

これまで皆さんは、高専が中心の生活でしたが、世の中には多種多様な人がいます。

これまでと違った経験をしている友人は、皆さんと違った視点から、人生を豊かにするアドバイスをくれたり、自分自身を高めたりもしてくれます。

是非、多くの友人を作ることを進めます。卒業式でも話しましたが、最近心にとめている、ハーバード大学図書館の言葉を掲げたいと思います。

- ・今眠りすれば、あなたは夢をみる。今学習すれば、あなたは夢がかなう。
- ・勉強の苦しみは一瞬のものだが、勉強しなかった苦しみは一生続く。
- ・勉強するのに足りないのは時間ではない、努力だ。
- ・学習は人生のすべてではないが、人生の一部として続くものである。

ここでいう、勉強とは学校の授業のことだけを指しているわけではありません。

学校にいるより、社会に出た方がよっぽど勉強が必要になり、勉強不足は直接、自分自身に戻ってきます。高専を卒業したということを誇りに持って頑張ってください。

そして、皆さんの更なる飛躍を遂げることを期待しています。

卒業を前にして

機械工学科 5年 栗林 広延

気がつけば、もうすぐ卒業です。希望を胸に、入学した日が昨日のこのように思います。振り返ると、先生方や両親、友達、先輩方や後輩達など、沢山のひとに助けられ、支えられながらの5年間でした。

高専の授業は中学校とは違い、専門的な内容の濃いものでした。それでも授業についていくことができたのは、先生方のわかりやすい説明と、勉強を教えてくれた友達のお陰です。また、私は1年から5年まで剣道部に所属していました。その中で、尊敬する先輩方や楽しい後輩達と過ごした日々は、私の心にかげ替えない思い出として残っています。

親元を離れての寮生活は、初めは戸惑いもありました。しかし、楽しい行事も多く、すぐに友達をつくることができました。徹夜でレポートを書いたことや、朝まで談笑したことは良い思い出です。

学校生活や寮生活、部活動を通して得たものは多く、私をひと回りもふた回りも成長させてくれた5年間でした。私ひとりの力では卒業まで漕ぎつけなかったし、楽しい高専生活も送れなかったと思います。来年度からまた新しい環境で勉強していくことになりませんが、人との出会いを大切にしていきたいと思っています。

学生生活を振り返って

機械工学科 5年 吉田 和樹

私は今年度を持って卒業致します。今改めて振り返りますと、福島高専での学生生活は数えきれないほど多くの思い出と、貴重な経験を得ることができたことを改めて実感します。勉学面、特に実習をはじめとした専門科目では、挫折し、悩んだこともありましたが、専門資格の取得などで自信を得、楽しみなどやりがいを感じることができました。生活面では、様々なイベントに参加・実行し、また個人的には、新しいことにチャレンジする機会がとて多く、非常に充実したものとなりました。

長いと思っていたはずの5年間も、過ぎてしまった今では、あっという間であったと感じています。正直に言いますと、来年から新たな地で、新たな生活が始まることを上手く実感することができません。それほどまでに、この5年間の学生生活は濃密で、感慨深いものであったのであろうと思います。このような学生生活を共に過ごしてくれた同級生、先輩方、後輩の皆様にはとても感謝しています。最後になりますが、勉学だけでなく様々な面で御支援、御教授頂いた先生方と職員の皆様にこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

- 福島高専専攻科（3名） 長岡技術科学大学（4名） 豊橋技術科学大学
 福島大学 山梨大学 金沢大学
 (株)IHI アルパイン技研(株) 出光興産(株) 小名浜製錬(株) 花王(株) ギガフォトン(株)
 キヤノン(株) キヤノンアネルバ(株) 堺化学工業(株) (2名) 三進金属工業(株) JFEスチール(株)
 (株)シンニッタン (株)テクモ 東海旅客鉄道(株) 東芝エレベータ(株) 東北電力(株)
 (独)日本原子力研究開発機構 (株)日立製作所 (株)日の出製作所 (株)三越伊勢丹ビルマネジメント
 三菱重工(株) 村田機械(株) 山崎製パン(株) (株)ワイ・イー・シー
 いわき市消防本部

電気工学科



DEPARTMENT OF ELECTRICAL ENGINEERING

翔び立つ君たちへ

電気工学科 5年担任 春日 健

電気工学科5年生、卒業おめでとう。毎日の出会いの中、生き生きとした君たちを見て指数関数的に成長していることを実感。朝のホームルームを通して基本的な生活習慣もしっかりしていて、気持ちの良い一日のスタートを迎えることができました。

委員長の矢吹君を中心に全員が一致協力し、自主的かつ先見的に事にあたる姿は立派でしたし、特に、卒業研究発表会での要旨集作成では、クラスの協力があってこそ準備ができたと思っています。レポートや課題などの期限厳守や欠席する場合の連絡など『報・連・相』が身に付いていたこともうれしい限りでした。

前任の島袋先生から引き継いだわずか3年間の短い期間であったが、多くの思い出もできました。たとえば、4年次の学年行事、横浜中華街でフロアを貸し切ったの楽しいひと時、皆の生き生き

とした顔は今でも思い出されます。互いの個性を尊重しあう、心にゆとりをもったクラスでした。

作家の中野孝次氏の著書『清貧の思想』から、心を自由にするには、モノや金に囚われない心を持つことが重要であると伝わってきます。たとえば、パソコンや携帯電話、スマートフォンなど次々に新発売されるモノがあります。新しいモノを買っても、また別のモノが出ればそれが欲しくなる。そのようなモノに心を捉われている限り、生きている人間への思いやりに変わることは不可能だと著述しております。本当に幸せになるには何よりも心の平安が必要だということを強く感じました。

最後に、偉大な先人たちの生き方『古典』を知ることにより、自らの生き方について考えてみてはどうでしょうか。真の幸福とは何かを。

5年間を振り返って

電気工学科 5年 園部 祐介

高専での5年間を振り返ってみると、内容の濃い充実した学生生活だったと思います。勉強やレポートに追われ、必死になって取り組んでいた日々は、今はすごく懐かしく思えます。そんな風に思えるのも、お世話になった先生方や5年間共に過ごしてきたクラスメイトの協力があってこそこのことです。先生方には勉強や就職活動のことでたくさん迷惑をかけました。クラスメイトは5年間同じクラスで、一緒に馬鹿なことをしたり勉強やレポートをしたりと、何をすることも楽しくできました。そんなクラスメイトと離れ離れになってしまうのは非常に名残惜しく感じます。彼らとは、これからも長く付き合っていける気がします。高専での楽しかった日々は、かけがえのない一生の宝物となるでしょう。

在校生の皆さんに伝えたいことは、高専での5年間を大切に過ごして欲しいということです。高専での5年間は、必ず将来の糧になる時間だと思います。自分の将来のために、一日一日を大切に、有意義に過ごして欲しいと思います。

最後に、お世話になった先生方、楽しい日々を共に過ごしてきたクラスメイトには本当に感謝しています。ありがとうございました。

編入生としての高専生活

電気工学科 5年 古市 朋之

私は編入生として2年前に高専の4年次に編入しました。高専の学生としては短い間でしたが、私にとっては大変充実した2年間となりました。

編入当初、私は不安の気持ちでいっぱいでした。そんなときにクラスみんなに声をかけてもらい安心した気持ちになれたこと、学校生活でわからないことを優しく教えてもらったことを今でもよく覚えています。クラスみんなに支えてもらったこと、本当に感謝しています。

高専での勉強は編入当初、大変苦労しました。高専の授業は高校で学んだ内容だけではほとんど理解することができず、悔しい気持ちでいっぱいでした。その悔しさからなんとか授業を理解しようと必死になっていたことを今でもよく覚えています。

また、吹奏楽部の一員として部活ができたことは私の何よりの思い出です。今のメンバーと吹奏楽コンクールに出場できたこと、定期演奏会に参加することができたことは自分にとってかけがえのない思い出です。

私は2年間という時間のなかで多くの教養を身につけられただけでなく、人間的にも大きく成長することができたと思います。それは周りの先生方やクラスみんなが支えてくれたおかげです。本当にありがとうございました。

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

福島高専専攻科（5名） 長岡技術科学大学（2名） 豊橋技術科学大学（6名） 山形大学
 茨城大学 筑波大学 千葉大学 声優養成所
 アルパイン技研(株) イーテクノ(株) エステー(株) NECネットエスアイ・エンジニアリング(株)
 (株)エヌ・ティ・ティ・エムイー キヤノン(株) (株)クレハ JX日鉱日石金属(株)
 東北電力(株)（2名） DOWAホールディングス(株) 日東電工(株) 日本たばこ産業(株)
 (株)日立エンジニアリング・アンド・サービス (株)日立製作所 (株)古河電池
 (株)三越伊勢丹ビルマネジメント (株)Y2S
 いわき市役所

物質工学科



卒業生に贈る言葉

物質工学科 5年担任 天野 仁司

物質工学科第12期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業ですから、学業を終えるということなのでしょうが、そうはいうものの、卒業式は米語で commencement (開始) です。つまり学業を終えて、これからは、修得した知識と技術の実践が始まるのです。そのためには、これからも常に新しい知識や技術を身につけていかなければなりません。

私は、今回が2回目の担任ですが、いずれのクラスもいい学生に恵まれ、担任として恥ずかしい思いをさせられたことは、ほとんどありませんでした。いい学生というのは、自己中心的な考えで行動するのではなく、生かされていることに感謝し、未来を予測して最善の道を常に探りながら、向上心をもって物事に挑戦していく者であって、決して試験で高得点を取るだけの人間ではありません。

皆さんは、本校に入学したときからこのような

人間だったのでしょうか？ 思い返してみてください。高専に入学して、中学校との違いに戸惑ったことでしょうか。それでも多くの方は、勉強でも課外活動でも、高専では、自ら求めて行動すれば、楽しい高専生活になるが、そうでなければ辛い5年間になることに気づいたと思います。卒業を迎えた今この大事な低学年の期間にご指導をいただいた石原万里先生には、大きな感謝の気持ちを持ってほしいと思います。

さて、先ほど「ほとんど」と書いたのが気になりますね。卒業を迎えるこの時期になっても、心のどこかに「もう、これでいい」や「自分がよければそれでいい」、あるいは「誰かがやってくれる」といった消極的で無責任な考えが棲みついていますか。皆さんが進もうとしている理工系の世界では、1番でなければだめなのです。2位に甘んじることなく、思う存分活躍してください。

高専生活を振り返って

物質工学科 5年 猪狩 美咲

好きなことがありますか？私は卓球と食べることが好きです。

私は高専での5年間卓球部に所属し、一所懸命に打ち込んできました。卓球を小学生の頃から始め、中学時代から卓球は生活の一部でした。高専に入学後は、一層練習に励みました。部活と勉強との両立に悩み、迷った時期もありましたが、卓球が好きだからこそ両方をやりきることができました。部活をしているから勉強ができないというのは間違っています。私は好きな卓球を続けてきたからこそ勉強も諦めずにできました。好きなことをみつけ、それを継続するということはとても大切なことです。そして、好きなことを好きと自信を持って言えることは、必ずや自分にプラスに働くはずですよ。私は、食品関係の会社に就職が決まっています。その会社を選んだ理由は、食べることが好きだからです。好きなことだからこそ、職場でも自分の力を充分発揮できると考えています。皆さんも、好きなことを見つけて下さい。嫌いなことでも、その中に好きなところを少しでも見つけることができたなら、諦めたり投げ出したりすることはないでしょう。好きなことを見つけ、それに一所懸命に取り組み、自分の進む道を切り開いていきましょう。

500文字には収まり切らない5年間

物質工学科 5年 大井川 亮

卒業まであとひと月を切り、高専生活も終わりに近づいているなと感じだした今日この頃。この5年間を振り返ってみることにしよう。

まず1年目。学級副委員長に立候補したにも拘らず、なんやかんやで委員長に。以後5年間、正直言って厄介なクラスをまとめることに。もう誰にも頼らない。そう決心したあの日。

次に2年目。5年間の中で一番怠けてしまった1年間。しかし、友達との思い出は格段に増やすことができた1年間。後悔なんて、あるわけない。

3年目。18歳になってようやく自分が天才ではないことに気がつく。あたして、ほんとバカ。努力って本当に大切。

4年目。何を血迷ったか、高専を退学し、一から大学に入ろうなんて考え付いた私。しかしながら、夏休みに受けたセンター模試の結果に絶望。こんなの絶対おかしいよ、と。とにかく、高専を卒業しようと固く誓った。

そして激動の5年目。5年生の5月という時期に、あまりに急な進路変更を決行。こうなったら短期集中。決心から2週間で就職活動を終えた。もう何も恐くない。

入学してからの5年間、本当に沢山の苦楽があった。そんな長い時間を共に過ごしてきた方々にただただ言いたい言葉は一つ。「ありがとう」

卒業生進路一覧

※()内は人数

福島高専専攻科(5名) 長岡技術科学大学(8名) 宇都宮大学 新潟大学(2名)
 アルパインプレジジョン(株) (株)アルビオン(2名) イクス(株) 京セラ(株) (株)クレハ
 (独)国立印刷局 サントリープロダクツ(株) JX日鉱日石エネルギー(株) 資生堂(株)
 住友化学(株) ソニー白石セミコンダクタ(株) 大栄フーズ(株) TANAKAホールディングス(株)
 (株)ツムラ トーアエイヨー(株) 東新工業(株) 東レ(株) 日本原燃(株) 日本曹達(株)
 日本触媒(株) 日立化成工業(株) (株)三井化学分析センター 三菱レイヨン(株)
 (株)ヤクルト本社(2名) 雪印メグミルク(株)

建設環境工学科



DEPARTMENT OF CIVIL ENGINEERING

読書のススメ

建設環境工学科 5年担任 緑川 猛彦

建設環境工学科第13回生の皆さん、卒業おめでとう。研究室対抗ボーリング大会と後期末試験が終わった時点でこの原稿を書いています。後は卒業研究発表会を残すだけとなりました。全員が無事卒業してくれるのかどうか一抹の不安と君たちの旅立ちを待つ喜びと寂さを噛み締めています。

3年前、前担任の秋山秀博先生から担任を引き継ぎました。予想していなかった担任要請でしたので戸惑いましたが、幸いにも1年生の創作実習と2年生の材料学の授業を受け持っていましたし、その時の君たちの印象がとても良かったので、喜んで引き受けました。そう言えば1年生の創作実習では、「5年階段」を作った班がありましたね。ちゃんと5年間で卒業できるようにと願いと恐れを込めたのだと思いますが、5年間を振り返ってどうでしたか？

この3年間、私は君たちに「読書」を控えめに薦めてきました。かく言う私も積極的に読書を始

めたのは8年前です。図書館で発行しているピブリアの貸出し図書集計欄の、年間100冊以上借りている学生の真似をしたのがきっかけです。まずは年間50冊から始めました。4年後に年間100冊を目標にしました。そして昨年やっと年間100冊を達成しました。毎日読書に追われる生活です。今まで君たちは、難しい数式や難解な記号を駆使して問題を解くことを訓練してきました。でも私の経験では、数式や記号で企画書を作成したことやそのような書類で発注者を納得させたことよりも、きれいな図と表と分かり易い文章で説得する方が断然多かったです。君たちも恐らく今後は、分かり易い文章で長文を書く機会が増えてくるはず。技術士試験もそうです。その時に読書は役に立つと思うのです。

ぜひ来年の元旦には、新しい住所と片隅に今年一番印象に残った本の題名を記した年賀状を頂きたいと思っています。

感謝

建設環境工学科 5年 小野 緑

ユーモア溢れる最高のクラスの皆と巡り会うことができ、私は幸せ者です。年を重ねるごとに、クラスの仲が深まっていき、一人ひとりがかけがえのない存在となりました。「お笑い」をテーマとした4年生の前夜祭では、私達のクラスの雰囲気を楽しんで頂けたでしょうか…大自然の中の3年生の校外合宿では、破壊価格で破壊的に充実させることができました。残骸とまで言われてしまったレポートや、実験、課題、テストに追われた時期をなんとか乗り越えられたのも、クラスの皆のお陰です。

卓球部に所属した5年間、泣きたくなくなるほどの壁もありました。しかし、同期、先輩、後輩、先生、友人による温かい支えがあり、最後まで部活を続けることができました。努力し続けることの大切さ、人との繋がりや沢山の出会い、勝つことの喜びを実体験した部活動から得られたものは、数えきれません。

15歳から20歳、仲間と共に泣き、苦しみ、喜び、笑って過ごしたことが、私の宝物となりました。両親、恩師だけでなく、支えてくださった皆様に、感謝の気持ち一杯です。在校生の皆さん、卒業までの貴重な時間、自分を信じ、仲間を信じ、一步一步全力投球してください。応援しています。

高専生活を振り返って

建設環境工学科 5年 渡邊 直

編入という制度により入学して早2年が経ちました。密度の濃い2年間で、入学した日が昨日のように感じられます。

編入した当初は、いままで学んできたことと似ているけど全く違う分野を学んでいくことへの不安がありました。同時に、途中からクラスに入っていき私が、上手くクラスに馴染めるかという不安と緊張もありました。

しかし、編入して高専生活を送っていく中で次第に不安はなくなっていきました。一番の理由は私が入ることになったクラスのノリが良かったからです。真面目な人から個性的な人、変人までいろんな人がいて、緊張もすぐなくなりました。勉強面では、レポートとテストもなんとかこなすことが出来ました。怠け癖のある私は、毎度のこのように期限ギリギリまで腰が上がらないので、特にレポートは大変でした。パソコンを発明した人に何度も感謝しました。

大震災などの影響があり、大変な時期もありましたが、無事2年間（皆5年間）、とても充実した高専生活を過ごすことが出来ました。今後の人生を歩んでいくためのかけがえのない経験を得たと思います。ありがとうございました。

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

- 福島高専専攻科（2名） 長岡技術科学大学（6名）
- 北海道大学 茨城大学（2名） 宇都宮大学（2名） 中央工学校
- アクアエンジニアリング(株) エステック(株) (株)エヌ・ティ・ティ・エムイー
- オムロンフィールドエンジニアリング(株) ショーボンド建設(株) (株)竹中土木 東海旅客鉄道(株)
- 東京水道サービス(株) (株)東北医療機器 東北電力(株) トーヨーアサノ(株) 日鉄パイプライン(株)
- 日特建設(株) 日本貨物鉄道(株) (株)ネクシス (株)ネクスコ・メンテナンス東北 (株)ピーエス三菱
- 東日本旅客鉄道(株) フタバコンサルタント(株) 前田道路(株)
- 三菱地所コミュニティ(株) ライト工業(株)
- 福島県庁 いわき市役所（2名） いわき市消防本部

コミュニケーション情報学科



DEPARTMENT OF COMMUNICATION AND INFORMATION SCIENCE

みなさんありがとうございました

コミュニケーション情報学科 5年担任 米本 清

私がこの学校に着任したのは、今から4年前、みなさんの大部分が2年生になったときでした。当時、私は新任教員ということで、みなさんから面白半分に声をかけられたり、学校内の色々なことを教えてもらったりしました。そんな私が、いつの間にか野球部の部長やクラス担任として、みなさんの日常の面倒をみたり、就職や進学のお世話をする立場になっていました。それぞれの立場で、とても十分に役目を果たせたとは感じていませんが、他の先生方、それに学生のみなさん自身の協力もあって、なんとか卒業のこの日を迎えることができました。

みなさんがこれまでの卒業生と違うところは、数百年に一度という大震災、そして世界を揺るがす原発事故の影響を直接受けたにも関わらず、この学校における全課程を無事修了し、進路を確定し、卒業に至ったという点だと思えます。今、み

なさんはそれがどれだけ困難なことであったか実感していないと思いますが、卒業後日が経つにつれ、また、県外や海外の人達などと接するにつれ、分かってくるはずですよ。どうか、その特別な経験を人生の原動力の一つに変え、普通の人達には真似のできないような、充実した生活を送ってほしいと願っています。

今回、ある意味で本意ながら、私もみなさんと一緒にこの学校を「卒業」してしまうことになりました。その点では、みなさんやみなさんの後輩に不安や不便を与えることとなり、申し訳なく感じています。私としては、この学校で学んだ多くのことを生かし、新しい職場に行っても、世界、日本、そして福島のために、何らかの貢献ができればと考えています。めいめいの場所で、みんながんばりましょう。

5年間を振り返って

コミュニケーション情報学科 5年 芳賀 怜香

私が福島高専に入学してから、早くも5年が経ちました。この5年間で、たくさんの思い出ができ、そして友達や先輩、後輩、先生などたくさんの人との素晴らしい出会いがありました。

高専での5年間はあっという間でした。今、これまでの学校生活を思い返してみると、警陽祭や体育祭、学年行事、部活の練習など、たくさんの思い出であふれています。学校生活での一番の思い出とすれば、やはりクラスの友達との思い出が印象に残っています。楽しいことやつらいことも、このクラスのみんななどだからこそ、共有できたのだと思います。

ほかにも、インターンシップや就職活動、卒業研究発表などと、乗り越えなければいけない壁が数多くありましたが、それぞれがこれらを無事乗り越え、今こうしてみんな一緒に卒業を迎えることができ、本当に嬉しく思います。みんなと一緒に過ごした5年間は、私を大きく成長させてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。そして、こんなに恵まれた環境で5年間過ごせたことを、私は誇りに思います。

在校生の皆さんには、周りの人との関わりを大事にして、後悔しない学生生活を送ってほしいです。

後悔のない5年間を

コミュニケーション情報学科 5年 茂木佳菜子

私が福島高専に入学してから、6年の月日が流れようとしています。地元会津を離れ、期待に胸を膨らませながら、高専での生活をスタートさせた日のことはついこの間のことのように思えます。

高専での日々を思い返してみると、『良い経験をたくさん積んだなあ』とひしひしと感じます。夜まで友達と過ごす寮生活、ずっと夢であった海外留学への挑戦、新しいクラスでの新たな生活、少し年の離れた先輩後輩との人間関係。普通高校に進学していたら味わえなかったであろう、たくさんのことを高専で吸収しました。

そして5年間というのは長いようであっという間に過ぎてしまいます。その5年間を充実させたものにするか、はたまた卒業する時に『もっとこうすれば良かった』と後悔するようになるかはみなさん次第です。在校生のみなさんへ私からのアドバイスは、やりたいと思ったことにはどんどん挑戦しようということです。やって失敗したら別なやり方でまた挑戦すればいい。やらない後悔よりやって後悔の方が成長できるのです。みなさんの高専生活が充実したものとなりますように！

卒業生進路一覧 ※ () 内は人数

- 福島高専専攻科 (6名) 長岡技術科学大学 東北大学 福島大学 (2名) 茨城大学
- 埼玉大学 神戸大学 (2名) 実践女子大学 多摩美術大学
- 桑決デザイン専門学校 EF International Language
- (株)アズノウアズ アライドテレシスホールディングス(株) アルパイン(株) (2名)
- アルパインプレジジョン(株) (株)科学情報システムズ キヤノンマーケティングジャパン(株)
- (株)キャンドゥコンセプト (株)小泉 (2名) (株)ジャパンイメージーション タップシステム(株)
- 学校法人イーエスピー学園 (株)東日本計算センター (株)富士通エフサス
- 三菱電機システムサービス(株)
- 国税庁 茨城県庁 いわき市役所 (2名) 所沢市役所

祝 修了 機械・電気システム工学専攻



祝 修了 物質・環境システム工学専攻



修了する諸君へ

機械・電気システム工学
専攻長 鈴木 晴彦

機械・電気システム工学専攻2年生の諸君、専攻科修了おめでとう。全員が学位を取得でき、そろって専攻科を修了できたことを大変うれしく思います。

みなさんは東日本大震災の影響をダイレクトに受けて、この一年をスタートしました。自分の将来を決定する大切な進路活動の真ただ中でした。そして企業からの採用見送りや採用数の見直しなどの現実が、更に突きつけられました。しかしみなさんは、それにめげるところか、むしろいつも以上に活発に就職活動・進学活動に精進し、その希望をいち早く実現しました。とても頼もしく感じました。

みなさんの専攻科での活動で一番注目したのは「プレゼンテーション能力の高さ」でした。それまでの専攻科学生とは一段レベルの異なった能力を、全員が身につけていると感じました。ですから、毎回の特研発表会はいへん楽しみでもありました。その素養をもって多くの学外発表に挑戦し、自身の研究成果と併せて、福島高専専攻科の研究教育の成果を学外へアピールできたのではないかと思います。

最後に伝えたいことがあります。みなさんは自身の研鑽によって様々な知恵を身につけたのですが、それを経験する場合は必然に用意されたものです。友人や恩師が、それを与えてくれたことを覚えていてください。専攻科修了おめでとう。

7年間の高専生活

機械・電気システム工学専攻
2年 山邊 周平

私にとっての高専生活は、7年間とながく、しかしその中身はとても濃い一つの物語でした。たくさんの人との出会いと別れを通して、私は人間として一回りも二回りも大きくなった気がします。レポートや課題、試験勉強、そして卒業研究・特別研究。多くの友人や先生方に恵まれたからこそ乗り越えることができたのだと思います。

高専の就職率は100%。私も無事内定をもらうことができました。しかし、みんながみんな自分のやりたいことを職業にできるとは限りませんし、やりたいことを見つけられないまま就職してしまう人もいます。そこで、後輩のみなさんにこの本科5年間、また専攻科までの7年間で見つけてほしいことは、「自分が将来何をしたいのか」ということです。就職難である現在、自分がやりたいことを職業にできるほど幸せなことはありません。ながい高専生活の中で友人や先生方、または家族と相談し、是非やりたいことを見つけていってください。それが自分の幸せにきっと繋がるはずです。

最後に、7年間こんな私を支えてくれたみなさま、そして専攻科に入ってから一番お世話になった平尾先生にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。

専攻科生のフロンティア魂を

物質・環境システム工学
専攻長 山ノ内正司

専攻科修了おめでとうございます。授業に特別研究にそして研究発表会に、本当に頑張ったと思います。修了証書、学位記、JABEE修了証を手にする時の姿は、さぞかし達成感に満ちあふれていることでしょう。修了式が楽しみです。

大震災後の厳しかった就職戦線も就職希望者全員が内定をいただき、また2名が北海道大学大学院と東北大学大学院へ進学できました。本当に良く健闘したと思います。

この4年間、専攻長として専攻科の運営に携わってきたこともあり、専攻科生が構内を堂々と闊歩している姿を見て、とても頼もしく感じておりました。本科生に比べたら数の上では少数ですが、皆さんは、高専に求められている専門の高度化を推進する担い手でもあり、卒業研究や4年生の工学セミナーのノウハウの継承者でもあり、その存在と役割は大きいと思います。

40数年の歴史を刻んだ本科の学生として入学した皆さんですが、専攻科生としてはこれからの歴史をつくるフロンティアの立場です。皆さんが大学生とは一味違う活躍をしてくれることが、専攻科教育の真価を証明することになると思います。フロンティア魂を胸に、今の自分に満足することなく、前へ前へと新しいチャレンジをしてください。皆さんの活躍すべてが、巡り巡って母校専攻科の歴史をつくる血となり肉となるに違いありません。そしていつの日か、専攻科修了生の中から母校の教壇に立つ人が現れることを心から願ってやみません。多くの個性に出会えたことに感謝し、皆さんのご活躍を祈念いたします。

福島高専からの贈り物

物質・環境システム工学専攻
2年 丹野 淳

入試説明会において、専攻科へ進学することで大学卒業の資格が取得でき、より深い研究を続けられることに魅力を感じ、グラウンドの綺麗な桜を7回眺める事になりました。

地域に貢献したいという気持ちで行った企業との共同研究、社員同様に接して頂いた長期インターンシップ、焦り、途方に暮れた大学院入試や学位授与試験などに精一杯取り組み直すことができたのも、先生方の熱意あるご指導の賜物です。また、小学校よりも長い学校生活で、私は、喜びも苦しみも共有し、分かり合える友人たちと出会いました。この絆は、大切な宝物になりました。

勉学と共に情熱を注いだ部活動の卓球。福島高専のゼッケンに憧れての入部以来、先生方の熱いご指導の御蔭で全国大会出場を果たしましたが、優しい先輩方や素直な後輩達との強い繋がりが何よりも嬉しい宝物です。

昨年、東日本大震災を体験した私は、土木技術者としての使命を強く感じました。故郷再生を目指し、今まで学んだ知識を糧として大学院で更に研鑽を積んで参ります。私を支えて下さった皆様に、心から感謝しております。「福島高専」…私にとって、大いなる資産です。

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

九州大学大学院
アルパイン技研(株) (株)NTTファシリティーズ
シーメンス・ジャパン(株) セイコーエプソン(株)
東日本旅客鉄道(株) (株)富士通
キヤノンアネルバ(株) (2名) (株)資生堂
東京エレクトロン宮城(株) 東北リコー(株)

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

北海道大学大学院 東北大学大学院
コスモ石油(株) 堺化学工業(株) 常磐開発(株) セメダイン(株) 東燃ゼネラル石油(株)
日東電工(株) 三井住友建設(株) 福島県庁 (2名)

祝 修了 ビジネス コミュニケーション学 専攻



自信を抱いて！

ビジネスコミュニケーション学
専攻長 坪井 晋也

専攻科修了、本当におめでとうございます。
大震災という、厳しい体験をも経験したなかで、専攻科での2年間、定期的な発表会や報告書類等にくわえて、学位取得のための「機構への学位授与申請」、そのための試験勉強と、とても過密なスケジュールのなか、よくがんばられたとおもいます。
今後の進路についても、マスコミで大きく取り上げられ、社会問題にもなっている「超就職氷河期」といわれるなか、3名が公務員に合格、4名が企業に内定、さらに進学を希望していた残り2名についても、それぞれ、希望していた大学院へと、進むこととなっていて、この面に関しても、よくがんばって結果を残されました。
これから先においても、様々な困難が待ち受けているとおもいますが、この専攻科での2年間のがんばりを糧に、ぜひ、自信を抱いて、立ち向かってほしいとおもいます。

卒業生進路一覧

※（ ）内は人数

東北大学大学院 日本女子大学大学院
コロナ技研工業(株) (株)ジェイアール東日本情報システム ソーバル(株)
(株)富士通システムソリューションズ 会津美里町役場 古殿町役場 会津若松地方広域消防本部

修了を迎えて

ビジネスコミュニケーション学専攻
2年 遠藤 一幸

本科の卒業から修了を迎えるまでの2年間は、私が想像していた以上に僅かな時間でありました。福島高専での7年間、私は日々の学校生活、課外活動、研究活動などを通して、たくさんの人に出会い、交流を深めて参りました。「一期一会」という言葉に相応しい7年間であり、私が高専生活を非常に充実したものだと思えるのも、こうした方々の存在があったためです。また、東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われながらも、今日こうして修了を迎えることができたのも、諸先生方、関係者の皆様、そして家族のお陰だと感じております。本当にありがとうございました。
さて、私達は4月から慣れ親しんだ学び舎を離れ、各々の新天地で新たな生活をスタートさせることになります。7年という年月の中には、数え切れない程の思い出があり、様々な想いが絢交せとなっていて、4月からの新生活が実感できずにいます。しかし、先輩方が築いてきた信頼に傷を付けないよう、また、これからの後輩の道標となれるよう、「福島工業高等専門学校」出身者としての自覚と責任を持って、今後の道へと進んでいきたいと思っております。

学生会



学生会活動を振り返って

学生会長 電気工学科 5年 水野 誠也

ご覧の皆様、こんにちは。
今年も、もう卒業の季節がやってまいりました。今、卒業するという事に清爽な気持ちであり、残り少ない高専生活を有意義に過ごしています。
今年度の学生会生活を振り返ると、今年度は学生会が新たに一步前進することができた年であると思っております。
今年度から新たな査定基準で部活動予算の修正を実施し、予算を決定しました。初の試みだったということもあり、多くの部活動に迷惑をおかけしてしまいました。さまざま問題点があり、来年度の予算決定にあたり改善すべき点が明確になりました。また来年度からの体育大会をより楽しいものにするために、今年度は他高専への体育大会の視察を行いました。その他にも東北地区文化部発表会への参加の補助や、今年度磐陽祭にかわる校内での文化部の発表の実施、など様々なことをすることができました。

ぜひ来年度からも継続していき、改善と見直しをすることで、よりよい福島高専をつくって欲しいと思います。
学生会活動を通して、計画と話し合いでの意見交換がいかに重要であるかがよくわかり、さらには人を動かし、実行することの大変さを学ぶことができました。これらの経験はこの先、自分にとって手助けになるものと思っています。
学生会活動に携わった諸先生方、学生課、そして全学生の皆様、本当にご協力ありがとうございました。
最後になりましたが、今年度、大地震が起こったにも関わらず今、こうして卒業または、進級ができることに感激しています。これも福島高専の教職員の皆様並びに高専に携わっている全ての人のおかげであります。学生一同、心の底から感謝申し上げます。

平成23年度卒業生・修了生の進路状況

進路対策委員長 山本 敏和

今年度は3月に震災と原発の事故が起こりましたため、本校の前期授業開始が5月上旬となり、それまで学生は登校停止となりました。企業の採用試験日程については選考時期を遅らせる例もありましたが、例年通りの場合には5年生担任と事務が連携して受験学生に個別に受験指導や応募書類の準備を行って下さいました。このように異例な状況で始まった年度ではありましたが、本科には510社から1,861名の求人が寄せられ、倍率は15.6倍(昨年は16.7倍)に達しました。3月上旬現在では、就職希望学生119名全員が内定しています。本科の進学希望者は40%(昨年度50%)となり、本校専攻科に21名、大学の編入学に約50名が合格しています。また、専攻科の修了生(32

名)につきましても、大学院進学5名、就職27名と全員進路が決定しております。これらは学生個人の努力、御家族と担任を初めとする教員の御指導、教務係および学生支援係の御支援の賜と存じます。

来年度に向けては、4年生を対象として後期から就職ガイダンス、面接指導講習会、進路別学習、希望者にはR-CAP(性格適性診断)とSTART(一般常識・基礎学力試験)、高専協力会参加企業の合同会社説明会(専攻科1年生も対象)、技術科学大学説明会を実施致しました。来年度も学生さん達の就職・進学が成功致しますことを御祈念申し上げます。

卒業生の進路(平成24年3月卒業)

()は女子学生

区分	機械工学科	電気工学科	物質工学科	建設環境工学科	コミ情学科	計
卒業生数	37(0)	37(0)	43(23)	40(8)	40(34)	197(65)
進学者数	11(0)	18(0)	16(7)	14(1)	19(14)	78(22)
就職者数	26(0)	19(0)	27(16)	26(7)	21(20)	119(43)
その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

専攻科生の進路(平成24年3月修了)

()は女子学生

区分	機械・電気システム工学専攻	物質・環境システム工学専攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
卒業生数	12(1)	11(2)	9(3)	32(6)
進学者数	1(0)	2(0)	2(1)	5(1)
就職者数	11(1)	9(2)	7(2)	27(5)
その他	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)

先輩達から後輩の皆さんへ進路についてアドバイスをいただきました。

就職

機械工学科 5年 藤田 広樹

就職活動は4年生から始まると思ったほうが良いです。インターンシップ先を自分が就職したい会社にしておけば、その後の就職活動にプラスになるからです。実際に会社に行くことで、WEBやパンフレットなどにはない情報を得ることができ、面接時により踏み込んだアピールが出来るはず。インターンシップに行った会社だと、面接も緊張せず、自信を持って臨めるかと思えます。

それと、学業の他に何か頑張っていることがあるとアピールしやすいです。自発的に取り組んだ活動なら部活動・アルバイトなど何でも良いでしょう。「目標を達成するために何をしたのか、どういう結果を出したのか」を明確に示せれば、きっと良い評価をしてくれるかと思えます。

進学

電気工学科 5年 押田 憲幸

皆さんは高専卒業の進路について具体的な考えを持っていますか? 将来への不安から、進路に対する悩みを抱えることもあると思います。そんな時は大いに悩んで下さい。その選択によって将来が左右されるわけですから。

私は高学年に進級した頃から進学を考えていました。その準備として、入学を希望する大学のホームページから情報を得たり、パンフレットや過去問を入手しました。また、各大学によって入試科目が異なるので、事前に把握し、受験対策をしていました。結果的に推薦で受けましたが、学力入試を想定した受験勉強は大切だと思えます。皆さんも出来るだけ早い時期から進路について意識を持ち、直前に焦ることのないようにして下さい。早め早めに行動を起こすことが肝心です。

進学

物質工学科 5年 志賀 諭

大学見学に行きましょう。自分のやりたいことができる環境か自分の目で判断しましょう。パンフレットは一見にしかず! 私も長岡技術科学大学の見学に行きました。平成23年3月11日に…。帰れず技大の宿泊施設で一泊しました。見学時間自体は短かったのですが、お世話していただいた学生の方から生活や勉強面での様子を詳しく知ることができました。家族の安否もすぐに確認できました。見学に行っていなければ、電話もつながらず、あんなに早く確認はできなかったでしょう。幸運でした。行動こそ、運を引き寄せる重要なファクターだと思います。あとはモチベーションをもって勉強するだけです。がんばってください。

就職

建設環境工学科 5年 高橋 智大

就職を考えている後輩皆さんの中には、就職活動に不安を抱えている人が多いと思います。私も1年前は不安でした。どの企業が自分に合っているのだろうか? どのような試験が待っているのだろうか? と疑問だらけでした。この疑問を解くために私が行なったことは、自分の今までを振り返り自分自身を理解することです。自分を知ることができれば、やりたいことも見えてきて、行きたい企業を見つけることができます。また、面接では自分の考えについて聞かれる質問が多くありますが、自分を知っていれば、それに対して素早く自信を持って答えることができます。

就職を考えている後輩の皆さんは、就職活動に始める前に1度立ち止まり自分を見つめ直してして下さい。きっと良い結果に結び付くはずですよ。

就職

コミュニケーション情報学科 5年 千島 早紀

就職活動のポイントは3つあります。まず、合同説明会に行ってみるべき。個別の会社説明会よりも、様々な企業の情報が得られ、交通費もお得です。行けない場合は就職情報サイトや各企業HPを活用しましょう。次に、就職試験にはSPIや小論文、面接など様々な試験があります。企業や業種によっては、専門性の高い試験を行うこともあります。試験対策としては、本での勉強がありますが、ちょっと値段が張るので、図書館で借りたり、みんなで買って共有するといいでしょ。最後に、就職活動はみんな初めてで、わからないことだらけだと思います。わからないことがあったら、とにかく先生や学生支援室に相談しましょう。皆親身になって聞いて下さり、きっといいアドバイスがもらえます。

進学

機械・電気システム工学専攻 日下 和也

大学院への進学を考える場合、配属を希望する研究室を訪問することが重要です。教授や先輩方から大学や研究室の様子、受験の情報などを伺うことができ、有意義な時間を過ごせると思います。(私のように) 遠方の大学院への進学を希望し、研究室へ足を運ぶことが難しい場合は、教授や先輩方が発表する比較的近くの会場で開催される学会の大会やシンポジウム、講演会などに参加することも一つの選択肢です。事前に話を伺いたい旨を伝えておけば、休憩時間や発表の後などに時間を作っていただけるかもしれません。いずれにしても、自分から積極的に行動することが大切です。

就職組の早期内々定にも焦らず、希望する大学院への合格を勝ち取ってください。

オープンキャンパスおよびミニ研究発表会のご報告 教務主事 青柳 克弘

東日本大震災の影響で中止になった本校文化祭（磐陽祭）に代わって、昨年11月3日（木）の文化の日に「オープンキャンパス」が開催され、学科・専攻科、研究室、各種センターの公開や入試相談等が行われました。学生による模擬店やイベントはありませんでしたが、本校受験希望の中学生やその保護者を中心に、約400名の方々に校内を自由に見学していただきました。入試相談の件数は磐陽祭の催しのひとつとして行われた昨年度の13件に対して2倍近い24件となり、参加者の真剣な眼差しが印象的でした。これまで「オープンキャンパス」は磐陽祭に組まれる形で開催されていましたが、今回図らずもこのような形になり、成果も得られたことから、これまで一部で出ていた磐陽祭との分離開催の議論にも拍車がかかるかもしれません。

午後からは、毎年恒例の2年生によるミニ研究発表会が第一体育館で行われました。ミニ研究は、教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうちに「自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表する」という過程を経験することで、個々の能力を高めることを目的としています。学科や専門の枠を越えた学習活動が展開され、福島高専の特色ある教育のひとつとなっています。発表はポスターを主として行われましたが、ポスター作製や発表方法に工夫が見られ、会場は熱気に溢れていました。お越しいただいた保護者並びに市民の皆様様に感謝申し上げます。

オープンキャンパス



全国高専ロボコン 初の準優勝

高専ロボコン指導教員 機械工学科 鈴木 茂和

初めに、ロボット技術研究会に5年間所属し、部員のロボット製作技術力向上に大きく貢献した機械工学科5年菅家麻美さんが、12月20日に不慮の事故により帰らぬ人となりました。高専ロボコン指導教員一同、心より哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

11月20日（日）に、高専ロボコンの聖地、東京両国国技館でアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2011全国大会が行われました。本校からは東北地区の代表として、東北地区大会で優勝した最強砲（サイキョウキャノン、リーダー機械工学科4年高橋大地）が出場しました。

東北地区優勝校のため1回戦はシードとなり2回戦からの出場でした。2回戦、準々決勝共にタッチダウンパスを成功させて準決勝に進出しました。準決勝の対戦相手は長野高専で、どちらも同じ11秒でタッチダウンパスを成功させました。審査員判定の結果、福島高専が決勝進出を決めました。決勝は同じ東北地区代表の仙台高専名取キャンパスチームで、全国大会初となる東北地区の代表同士の戦いとなりました。惜しくも負けてしまいましたが、準々決勝前はロボットの暴走、準決勝前は回路のショート等、関係者以外知らないトラブルが発生したものの、チームワークにより短時間でトラブルを乗り越えることができました。大会で競技を行ったのは各チーム3人ですが、夏休みや休日返上で製作や整備・調整にロボット技術研究会の学生が一丸となって取り組んだ成果です。

会場には本校関係者・保護者、OB、市内の中学生の総勢約100名に応援に来て頂き、重ねて厚く御礼申し上げます。

来年は、東北地区大会が本校主幹で開催されます。仙台高専名取キャンパスに負けぬよう、学生を指導していきたいと思っております。全国大会で優勝するためには学生・教職員・保護者の皆様方の御協力と御支援が必要不可欠です。来年度も引き続きご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

全国高等専門学校ロボットコンテスト 結果報告

指導教員 機械工学科 鈴木 茂和

10月16日(日)に、八戸高専第一体育館(青森県八戸市)で行われたアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2011東北地区大会で、本校のAチーム(ロボット名:最強砲(サイキョウキャノン))が優勝し、全国大会出場権を獲得しました。また、Bチームはデザイン賞を受賞しました。

<成績>

Aチーム(リーダー 4M高橋大地)優勝(全国大会出場)セーフティデザイン賞
Bチーム(リーダー 5M菅家麻美)デザイン賞

今年の東北地区大会は本校で開催の予定でしたが、震災の影響により急きょ八戸高専での開催となりました。また、当初は震災後の混乱により1チームのみの出場も検討しましたが、皆様のご支援により2チーム出場することができました。指導教員一同厚く御礼申し上げます。



全国高等専門学校デザイン コンペティション2011in北海道 報告

指導教員 建設環境工学科 根岸 嘉和



今年度の高専デザコンは、函館高専が担当校となって、11月12・13日に釧路市で行われました。本校は【構造デザインコンペティション】に2チームの作品(写真の上・下)が出場しました。競技は、長さ100~110cmで重さ300g以下の橋模型を、8mm×8mm以下の検角材を木工用ボンド接合して作成し、その片端と中間1箇所を支持し、反対側先端(張出し長50~90cm)に集中荷重をかける「片持ち構造」の強度(最大モーメントM=荷重F×張出し長L)を中心とする総合性能を競うものです。

写真に示す2作品は、上が太目の材料で枠を組んだラーメンモデル(名称「レゾゴ-釧路」、製作=3建:菅野蓮華・小松 隆・太田一央・齋藤めぐみ)(32/56)位、下が細い材料を三角形に組んだトラスモデル(名称「橋 鞆」、製作=3建:松崎祐樹・佐藤高音・大和田輝泰・1建:遠藤健悟)(39/56)位です。

これらは、両チームの8名による汗の結晶ですが、低学年で経験不足だった点に加え、指導者側がそのことを意識し過ぎる余り、意欲的な発想を引き出す指導ができなかった点が響いて、学生たちの最善の努力があったにもかかわらず、満足のいく結果は得られませんでした。

この経験を来年度の大会「高専デザコン2012 in 小山」に活かし上位入賞を目指して、新チーム結成で準備しています。

なお、今年度の片持ち構造でも、中間支点位置にタワーに相当する部材を立て、そこから斜めに吊材を配置して張出し部を吊った効率的な構造が上位を占め、M=173kg×80cm=13,840kgcmの作品も出るなどハイレベルな大会でした。

また、本校から本デザコンの他部門へは、【空間デザインコンペティション部門】の予選に、5年生6名の3チームによる3作品(28ページ参照)が出場しました。



全国高等専門学校第22回プログラミング コンテスト

指導教員 コミュニケーション情報学科 島村 浩



平成23年3月11日。未曾有の大地震、津波、原発事故、風評被害... 今まで「起きるはずない、大丈夫」と思っていたことが、そうではないと思い知らされた日...

この影響で、主管校は、当初予定していた岩手県の一関高専から、急遽、京都府の舞鶴高専へと変更になりました。時期も通常より約2か月遅れの、平成23年12月22・23日でした。

今回は、競技部門のみの参戦。5年間頑張ってきた5年生2人と3年生1人のチームです。競技部門は、各高専1チームずつと、海外4チームの64チームで競われました。「よみがえれ、世界遺産」と題し、画像データに多数のピースを演算させて、早く元の画像に戻すものです。

1回戦、準決勝、決勝と好調に勝ち抜け。11回目の観戦でしたが、決勝に残ったのは、初めてです。

12チーム中11位でしたが、きちんと元画像に復元し特別賞を受賞しました。

来年は、九州の有明です。4年生が一番上ですが、「がんばっている福島」をアピールできればと思っています。応援よろしくお願ひ致します。



第5回全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト

指導教員 一般教科 石原 万里

第5回全国高専英語プレゼンテーションコンテストが、1月28・29日にオリンピック記念センターで開催されました。コンテストは、スピーチ部門とプレゼンテーション部門の2部構成ですが、今年からプレゼンテーション部門の最優秀チームに文部科学大臣賞が授与されることになりました。5年目を迎えたコンテストは、実質的にも、非常にレベルの高い大会となりました。

本校からは、東北地区高専英語スピーチコンテストに優勝したコミュニケーション情報学科1年の有本温子さんが出場しました。スピーチタイトルは、「The Power of Social Networking Services」です。有本さんは、ツイッターなどのソーシャル・ネットワーキング・サービスの有効性について、自分の経験に基づいた視点を展開しました。惜しくも入賞は逃しましたが、全国大会参加者の中で唯一の1年生としてその存在を印象付けました。



文化発表会 ～煌めく文化の光～

文化発表会委員長 コミュニケーション情報学科 4年 日野 俊輔

今年の1月16日から20日にかけて、「文化発表会」が開催されました。例年に行われていない、この「文化発表会」という催しを開催するに至った理由は、今年度、震災の影響により磐陽祭（高専祭）が中止になってしまったからです。磐陽祭は、文化部や文化系サークルの人達にとって、日頃の活動・練習の成果を発表する数少ない機会です。その機会をなくさないようにしたいという提案が学生会から上がったため、学生会と、今年度の磐陽祭をまとめる予定だった磐陽祭委員、そして文化系の各団体が主体となりその案を具体化し、この催しを開催する運びとなりました。

この発表会には、美術部・演劇部・写真部・茶華道部・天文部・無線通信部・弦楽アンサンブル愛好会・ストリートダンスサークル・ソフトウェア研究会の計9団体が参加し、開催期間の放課後の時間を利用して、各団体が作品の展示や発表などを行いました。美術部・写真部の作品の展示や、弦楽アンサンブル愛好会の演奏会を始め、各団体がそれぞれに発表内容を決定して実行し、日頃の活動の成果を十分に発揮していました。

また、学生が文化部・文化系サークルの発表を見学する機会も今年度はこの一度だけだったので、発表や企画を見学したり体験したりした人達にとっては、とても有意義な時間になったのではないかと思います。

今回の発表会を、来年度の磐陽祭の運営や各団体のさらなる活躍につなげることが出来るようにしていければと思っています。



写真：福島高専写真部



体育部

◎平成23年度福島県高等学校新人体育大会 県大会

■陸上競技

円盤投	宮路 しほ (1 C)	第5位
砲丸投	宮路 しほ (1 C)	第6位

■バレーボール (男子)

1回戦	高専 0-2 会津工業	1回戦敗退
-----	-------------	-------

■ソフトテニス (男子)

団体戦		3回戦敗退
個人戦	大和田 嵩 (2 K) 佐藤 伸耶 (2 E)	
ベスト8		
〃	金丸 允駿 (2 E) 佐野 友啓 (1 K)	2回戦敗退

■テニス (男子)

学校対抗		2回戦敗退
------	--	-------

■テニス (女子)

個人戦	高橋ちひろ (2 I)	2回戦敗退
〃	山田 瑛子 (2 K)	1回戦敗退

■卓球 (男子)

学校対抗		3回戦敗退
ダブルス	中丸 智貴 (2 E) 青木 勇斗 (2 M)	
ベスト8		
〃	木田 貴文 (1 C) 佐藤 瑞樹 (1 C)	3回戦敗退
〃	富塚 俊太 (2 K) 蘭部 康太 (2 M)	2回戦敗退
シングルス	中丸 智貴 (2 E)	ベスト8 (東北選抜強化合宿出場)
〃	青木 勇斗 (2 M)	ベスト32
〃	鈴木 孝幸 (1 E)	ベスト32
〃	磯上 友輝 (1 K)	ベスト32
〃	富塚 俊太 (2 K)	3回戦敗退
〃	佐藤 瑞樹 (1 C)	3回戦敗退
〃	木田 貴文 (1 C)	2回戦敗退
〃	金成 憲吾 (1 E)	1回戦敗退

■卓球 (女子)

学校対抗		第2位 (東北選抜大会出場)
ダブルス	滑川 侑佳 (2 I) 今野小百合 (2 K)	第3位
シングルス	滑川 侑佳 (2 I)	第1位 (東北選抜強化合宿出場)
〃	今野小百合 (2 K)	ベスト8 (東北選抜強化合宿出場)
〃	齋藤佳菜子 (1 I)	ベスト16

写真：福島高専写真部

■水泳 (男子)

50m自由形	森下 英樹 (1 E)	第43位
〃	菅野裕次郎 (1 E)	第57位
100m自由形	横山 佳輝 (2 M)	第38位
〃	森下 英樹 (1 E)	第45位
〃	平木 義久 (2 M)	第57位
200m自由形	松田 裕樹 (1 E)	第20位
〃	猪狩 聖人 (2 E)	第23位
〃	横山 佳輝 (2 M)	第33位
400m自由形	松田 裕樹 (1 E)	第17位
〃	猪狩 聖人 (2 E)	第18位
〃	木下 小鉄 (1 M)	第25位
100m背泳ぎ	関根 健恭 (2 M)	第17位
〃	菅野裕次郎 (1 E)	第21位
200m背泳ぎ	関根 健恭 (2 M)	第13位
100m平泳ぎ	大友 一生 (1 M)	第2位 (東北大会出場)
〃	圓子 智弘 (2 E)	第8位
〃	増田伊扶己 (2 K)	第24位
200m平泳ぎ	大友 一生 (1 M)	第2位 (東北大会出場)
〃	圓子 智弘 (2 E)	第7位
〃	増田伊扶己 (2 K)	第16位
100mバタフライ		
〃	齊藤 大明 (2 I)	第12位
〃	平木 義久 (2 M)	失格
200m個人メドレー		
〃	山下 賢也 (2 M)	第22位
400mリレー		第10位
400mメドレーリレー		第7位



■水泳(女子)

50m自由形	若松 真純 (2 I)	第20位
100m自由形	若松 真純 (2 I)	第19位
〃	佐々木夏子 (1 C)	第24位
100m平泳ぎ	佐々木夏子 (1 C)	第14位
200m個人メドレー	小野 晶子 (1 C)	第3位 (東北大会出場)
400m個人メドレー	小野 晶子 (1 C)	第1位 (東北大会出場)

■空手道

男子個人形	岡田 真樹 (1 E)	2回戦敗退
〃	矢内 優 (1 E)	2回戦敗退
男子個人組手	矢内 優 (1 E)	2回戦敗退
〃	岡田 真樹 (1 E)	1回戦敗退

■バドミントン(男子)

ダブルス	貝沼秀一郎 (1 E)	
	青木健一郎 (1 K)	2回戦敗退

■バドミントン(女子)

団体戦		1回戦敗退
ダブルス	瀧 彩文 (2 I)	
	薄葉なつみ (1 C)	3回戦敗退
シングルス	薄葉なつみ (1 C)	ベスト16

◎第56回福島県高等学校駅伝競走大会

男子チーム		第28位
-------	--	------

◎第66回福島県男女総合バスケットボール選手権大会

男子チーム		2回戦敗退
1回戦	高専 117-40 会津高校	
2回戦	高専 47-63 小高工業クラブ	

◎第9回福島県高等学校秋季ソフトテニス選手権大会

男子団体		第3位
------	--	-----

◎第35回NHK杯福島県クラブ対抗ソフトテニス大会

男子団体		ベスト8
------	--	------

◎第41回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会

男子団体戦		2回戦敗退
個人戦	大和田 嵩 (2 K)	
	佐藤 伸耶 (2 E)	ベスト8
〃	金丸 允駿 (2 E)	
	佐野 友啓 (1 K)	2回戦敗退

◎第38回福島県ジュニアダブルステニス選手権大会

男子	比嘉 和也 (2 E)	
	高木 健志 (1 I)	2回戦敗退

女子	高橋ちひろ (2 I)	
	大滝 真優 (2 I)	1回戦敗退
女子	山田 瑛子 (2 K)	
	坂本 萌子 (2 I)	1回戦敗退

◎第64回東京卓球選手権大会 福島県予選会

一般男子ダブルス	松本 知也 (4 I)	
	桑嶋 隆 (4 M)	ベスト16
〃	中丸 智貴 (2 E)	
	青木 勇斗 (2 M)	2回戦敗退
一般女子ダブルス	滑川 侑佳 (2 I)	
	今野小百合 (2 K)	第3位
一般男子シングルス	〃 中丸 智貴 (2 E)	ベスト16
〃	松本 知也 (4 I)	予選敗退
〃	桑嶋 隆 (4 M)	予選敗退
〃	青木 勇斗 (2 M)	予選敗退
一般女子シングルス	〃 滑川 侑佳 (2 I)	第3位 (東京卓球選手権大会 本選出場)
〃	今野小百合 (2 K)	予選敗退

◎福島県選抜ジュニアバドミントン競技大会

U17女子シングルス	薄葉なつみ (1 C)	1回戦敗退
------------	-------------	-------

◎第37回東北卓球連盟強化合宿大会

(男子)	中丸 智貴 (2 E)	第49位
(女子)	滑川 侑佳 (2 I)	第18位
	今野小百合 (2 K)	第39位

◎第35回東北高等学校選抜卓球大会

女子学校対抗		予選敗退 (Aブロック6チーム中4位)
--------	--	------------------------

◎第19回東北高等学校新人水泳競技大会

男子100m平泳ぎ	大友 一生 (1 M)	予選敗退
男子200m平泳ぎ	大友 一生 (1 M)	予選敗退
女子200m個人メドレー	小野 晶子 (1 C)	予選敗退
女子400m個人メドレー	小野 晶子 (1 C)	第5位

◎第48回東北地区高専体育大会宮城大会

ラグビーフットボール競技		1回戦敗退
--------------	--	-------

◎平成23年度全日本卓球選手権大会

一般女子ダブルス	滑川 侑佳 (2 I)	
	今野小百合 (2 K)	1回戦敗退
ジュニア女子シングルス	滑川 侑佳 (2 I)	1回戦敗退

◎第64回東京卓球選手権大会

滑川 侑佳 (2 I)	1回戦敗退
-------------	-------

◎第66回国民体育大会(山口国体)

少年男子B		
100m平泳ぎ	大友 一生 (1 M)	予選敗退

■山岳部

・筑波山登山		実施
--------	--	----

■サイクリング部

・第44回福島県サイクルスポーツ猪苗代大会		参加
-----------------------	--	----

文化部・研究会・サークル

■写真部

・東北地区高等専門学校文化部発表会 写真部門	田熊 深 (1 M)	特選
	大家 若奈 (3 C)	入選
・いわき地区高等学校写真展	田熊 深 (1 M)	特選、入選
	大家 若奈 (3 C)	準特選、入選
	小川 大雅 (1 E)	入選×2
・第30回福島県高等学校総合文化祭写真展		出品
・いわき街なかコンサート in TAIRA 2011		
ボランティアスタッフ撮影		実施

■吹奏楽部

・第33回定期演奏会		実施
・第49回いわき市吹奏楽新人演奏会		参加

■美術部

東北地区高等専門学校文化部発表会 絵画部門	佐藤 梨穂 (5 I)	特選
	諸橋由紀恵 (5 I)	入選
	佐藤 高音 (3 K)	入選

■茶華道部

いわき学校茶道連盟		
平成23年度第1回合同発表会		参加

■ソフトウェア研究会

第14回全日本中学校Webコンテスト		
ThinkQuest JAPAN		
タイトル「電磁気の道」	高橋真奈茄 (3 E)・猪野 康弘 (2 E)	

写真：福島高専写真部

小林 尚輝 (2 E)・駒木根大海 (2 C)	
木村 峻佑 (1 E)	
高校生の部 トップ50およびセミファイナリスト	

■天文部・化学愛好会

準天頂衛星「みちびき」	
G P S 補完技術実証実験	参加

■弓道愛好会

・平成23年度福島県高等学校新人体育大会	
弓道競技	
男子個人戦	梅本 翔 (2 C) 準決勝敗退

■分子生物学愛好会

第4回先端ものづくりチャレンジin習志野	
チーム名「堀越ふみちゃんRainbow」	
小林 翠 (3 C)・鈴木 彩美 (3 C)	
松崎 優香 (3 C)・笠原 渚子 (3 I)	
岩崎 莉歩 (1 C)・菅原 佳奈 (1 C)	本選進出(デザイン賞受賞)



◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2011	
東北大会(八戸高専第一体育館)	
・福島高専Aチーム「最強砲(サイキョウキャノン)」	高橋 大地 (4 M)・飯塚 将太 (3 M)
	岩本慎太郎 (2 E) 優勝(全国大会出場)
・福島高専Bチーム「機馬武射(キバムシャ)」	清水 治憲 (2 M)・門井 幸太 (2 M)
	高橋 誠汰 (2 K) 2回戦敗退・デザイン賞

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2011	
全国大会(両国国技館)	
チーム名「最強砲(サイキョウキャノン)」	準優勝

◎全国高等専門学校第22回プログラミングコンテスト

【競技部門】	
タイトル「IRIS-Img Recover Imprint Sys-」	
松島 弘 (5 E)・赤塚 篤 (5 E)	
赤津 亘 (3 C)	特別賞

◎全国高等専門学校デザインコンペティション2011

【構造デザインコンペティション部門】

- ・作品名「レッゴー釧路」
菅野 蓮華 (3 K)・小松 隆 (3 K)
太田 一央 (3 K)・齋藤めぐみ (3 K) 第32位
- ・作品名「橋樞」
松崎 祐樹 (3 K)・佐藤 高音 (3 K)
大和田輝泰 (3 K)・遠藤 健悟 (1 K) 第39位

【空間デザインコンペティション部門】

- ・作品名「地域交流と地域創造の中核を担うキャンパス」
大内 奨也 (5 K)・加藤 湧亮 (5 K) 予選参加
- ・作品名「“まち”にリンクした地域一体型キャンパス」
石井 侑希 (5 K)・齋藤 寛尚 (5 K) 予選参加
- ・作品名「中心市街地に開かれた「静」と「動」のサテライトキャンパス」
佐藤 京平 (5 K)・圓山 亮 (5 K) 予選参加

◎第3回東北地区高等専門学校英語スピーチコンテスト

- 有本 温子 (1 I) 第1位
(全国大会出場)

◎第5回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

- 【スピーチの部】
有本 温子 (1 I) 参加

◎平成23年度科学の甲子園全国予選

- チーム名「Star orz」
大坪 由貴 (1 C)・西郷 知樹 (1 C)
齋藤 快 (1 C)・佐川 史弥 (1 C)
佐藤 瑞樹 (1 C)・新川 真弘 (1 C)
角田 元 (1 C)・本田 一史 (1 C) 予選1位 (全国大会出場)

◎第1回科学の甲子園全国大会 (兵庫県西宮市)

3月24日～



写真：福島高専写真部

- 大坪 由貴 (1 C)・西郷 知樹 (1 C)
- 齋藤 快 (1 C)・佐川 史弥 (1 C)
- 佐藤 瑞樹 (1 C)・新川 真弘 (1 C)
- 角田 元 (1 C)・本田 一史 (1 C)



学生表彰

特別表彰

- ◎高専制度創設50周年記念事業共通マーク
デザイン公募 優秀賞
会沢 渚織 (2 ME)

◎全国高等専門学校体育大会

- 水泳競技男子400m自由形3年連続優勝
佐藤 祐樹 (3 M)

学会表彰

- ◎電子情報通信学会東北支部 優秀学生賞
的場 駿介 (5 E)
- ◎電気学会東北支部 優秀学生賞
小田 公則 (5 E)
- ◎日本化学会東北支部長賞
志賀 論 (5 C)
- ◎全国高専土木工学会 (近藤賞)
加藤 湧亮 (5 K)
- ◎社団法人全国経理教育協会 表彰
井口沙紀恵 (5 I)
鈴木 希 (5 I)
松田 美穂 (5 I)
- ◎国土交通省東北地方整備局磐城国道事務所主催
浜通り管内技術業務報告会 優秀賞
近藤 克哉 (2 CK)
丹野 淳 (2 CK)

東日本大震災復興関連

第3種放射線取扱主任者講習会を開催

福島高専では、文部科学省の「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」に採択されたことを受け、本校教職員を対象として、放射線に対する正しい知識を理解させることを目的に、第3種放射線取扱主任者免状講習会を12月26日(月)27日(火)の2日間にわたり実施した。

講習会では、日本原子力研究開発機構原子力人材育成センターの職員等が講師となり、放射線等

の概論・安全管理・人体に与える影響・法律等の講義を7時間受講後、放射線量の測定実習が3時間行われた。最終日には修了試験があり、受講した27名が合格した。

今後、福島高専では、新たに設置した「福島高専地域復興支援室」を中心に、地域復興に向けたさまざまな活動を、教職員一丸となって実施する予定である。



講義の様子



放射線量の測定実習

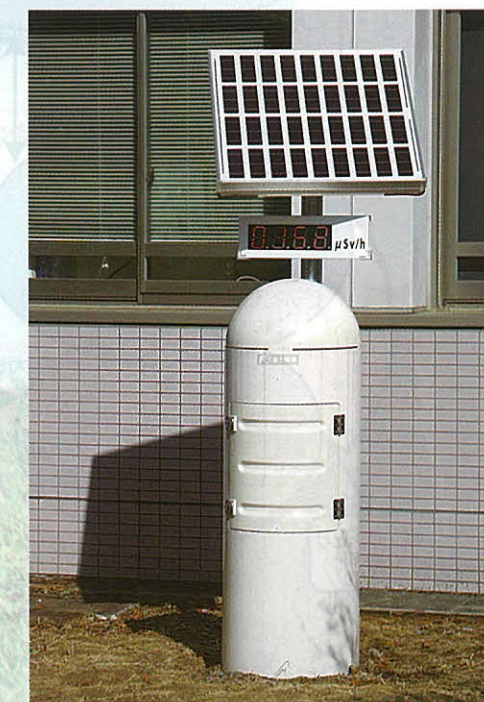
リアルタイム線量測定システムの設置について

本校管理棟前に、文部科学省のリアルタイム線量測定システムが設置されました。

測定した空間放射線量率は下記の文部科学省のHPで閲覧できます。

文部科学省HP 放射線モニタリング情報

<http://radioactivity.mext.go.jp/map/ja/area2.html>



福島高専の復興人材育成事業について

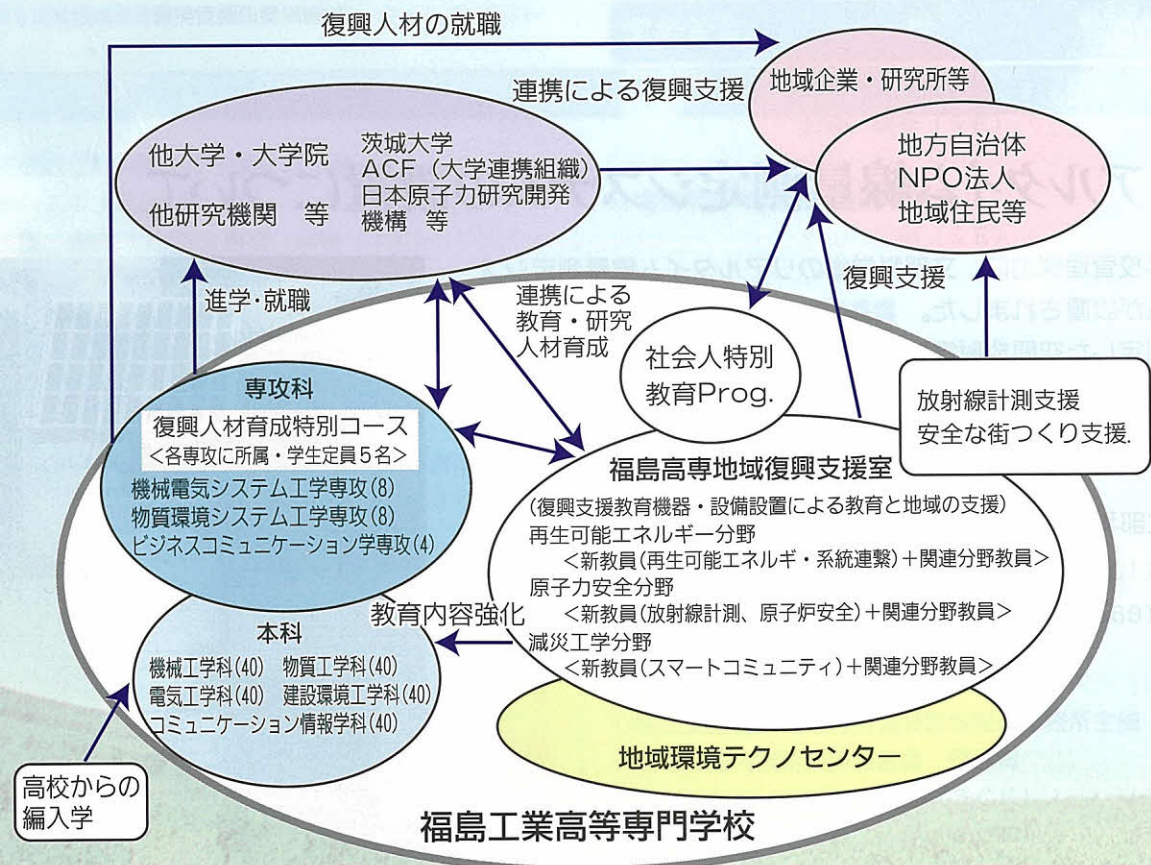
副校長（教務主事） 青柳 克弘

本校は震災直後に地域環境テクノセンター内に設置した「福島高専地域復興支援会議」の機能を拡充・改組した校長直轄組織の「福島高専地域復興支援室」を中心に、数少ない技術系の地元高等教育機関として原子力発電所事故の終息、再生可能エネルギー利用技術、地震津波等自然災害の減災に関連する知識を有する復興に貢献できる人材の育成及び地域貢献を行っています。

平成23年度にはそれらの事業に必要な設備の整備を行うとともに、放射線測定器の取扱講習会や防災・減災に関する講演会等を実施しました。

平成25年度には専攻科に復興人材育成特別コース（学生定員5名増）を設置し、再生可能エネルギー、原子力安全、減災工学の3分野において地域復興に必要な教育を実施します。新設の再生可能エネルギー発電工学、電力流通工学、原子炉工学、放射線安全工学、減災工学の5科目に既設の5科目を加えた10科目と実験を用意し、「福島高専地域復興支援室」に新たに配置する任期付教員と関連分野の教員が連携して、本科の基礎の上にさらに専門性を深め、かつ震災復興で活躍できる知識をもつ人材を育成します。これに先んじて平成24年度から本科に関連3科目を開講します。地域復興への貢献と専攻科進学に強い希望を持っている学生には、是非ともこのコースを選択していただきたいと考えております。

本校は震災直後に地域環境テクノセンター内に設置した「福島高専地域復興支援会議」の機能を拡充・改組した校長直轄組織の「福島高専地域復興支援室」を中心に、数少ない技術系の地元高等教育機関として原子力発電所事故の終息、再生可能エネルギー利用技術、地震津波等自然災害の減災に関連する知識を有する復興に貢献できる人材の育成及び地域貢献を行っています。



創立50周年記念事業について

実行委員長 山ノ内正司

福島工業高等専門学校は、昭和37年に産業界からの強い要請に基づき、中学校卒業後の5年間一貫教育により、優れた実践的技術者を養成するための高等教育機関として創設され、本年創立50周年を迎えます。この記念すべき節目を迎えるにあたり、創立50周年記念事業実行委員会を組織し、以下のような記念事業を計画いたしました。

これらの事業を推進するために記念募金を開始したところですが、後援会様よりは寄付金を頂けると伺っております。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

記念式典には保護者の方も参加できますので、後日改めてご案内申し上げます。また、創立50周年記念誌・記念DVDは、現在のところ、関係諸機関への配付と高額寄付者への贈呈に限定しておりますが、保護者の方からの希望が多ければ、実費にて販売することも検討しております。このことについても改めてご通知いたします。ロゴマークを募集していますので保護者の方もふるって応募してください。

（詳細は <http://www.fukushima-nct.ac.jp/>）

創立50周年記念事業の概要

1. 記念式典の挙行および記念講演会・祝賀会の開催

平成24年10月20日（土）13時に、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて創立50周年記念式典・記念講演会を挙行します。引き続き、16時30分より、いわきワシントンホテル椿山荘において、同窓生、来賓の方々のご列席を賜り、創立50周年を祝賀します。

2. 創立50周年記念誌の刊行および記念DVDの作成

福島工業高等専門学校の半世紀にわたる教育・研究・地域連携活動を記念誌として編纂し、ポスト50年の礎とします。また、貴重な写真や動画を納めたDVDを作成いたします。

3. 国際交流基金の創設

国際交流を図るために国際交流基金を創設し、学生の海外交流支援金、海外インターンシップ支援金として使用いたします。

4. 福島工業高等専門学校ロゴマークの制作

創立50周年を機に、ロゴマークを制作いたします。

退職者紹介

- 学生課 看護師 杉山 誠子
- モノづくり教育研究支援センター 第1グループ長 渡邊 昇

24年、3月に定年退職された方で、永年にわたり本校の教育、研究をサポートして頂きまして、御礼申し上げます。

